

東奥日報
2021年(令和3年)5月17日(月曜日) (14)

工学の研究成果、文化・教養、暮らし…

幅広い情報 教員が紹介

八工大「マチナカ公開講座」スタート

八戸

八戸工業大学は5月から、市民向けの「マチナカ公開講座」を新たにスタートさせた。同大の約70人の教員が交代で八戸市中心街や南郷地区などに繰り出し、工学やデザイン分野の研究成果や文化・教養、暮らしに役立つ情報を幅広く紹介していく。今年は12月までに36回開催する予定。
(近藤弘樹)



初回は15日、八戸ポータルマに講演した。八戸市民ルミューシウムはつちで工学部機械工学科の浅川拓克准教授が「医工連携」をテーマに乗り入れる移動型緊急手術室（通称・ドクターカーⅠV3）の開発では「医師が患者を3方向から治療できる広さを確保」「事業費を低く抑え、ほかの病院や自治体でも配置できるようにする」ことなどに留意したほか「車両のかっこよさも重視したという。

浅川准教授は「救急病院から遠いために助けられなかった命を一つでも多く助けたいの思いだった」と振り返り「若い医師が憧れるようなかっこいい車両にしたことで、八戸地域の医師確保にもつながった」と話した。新型コロナウイルス対策での医工連携も紹介。「全ては地域の安全と安心のため」と強調した。

八戸工大の医工連携の取り組みを説明する浅川准教授＝八戸市、はつちへ。
公開講座の日程やテーマは八戸工大のホームページに掲載する。問い合わせは同大社会連携学術推進室（電話0178-2588005）へ。

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」